

夢に生きる Challenge to My Dreams



キウイフルーツ

伊東市では、全果実に袋掛けを行い、減農薬栽培で日焼けや傷が少ない高品質な果実を生産しています。

10月から果肉が赤く高糖度の「レインボーレッド」、11月後半から甘みと酸味のバランスが良い「東京ゴールド」「アップルキウイ」、2月からグリーン色で定番の「ヘイワード」を出荷しています。

伊東市でキウイフルーツを栽培する鈴木さんは、高校卒業後に自衛官として10年間務めた後、父・輝雄さんが実家で営んでいた農業を継ぎました。「自衛隊の規律ある生活の中で、体力と忍耐力を養った経験が生きて、真剣に農業に取り組めた」と就農当時を振り返ります。

輝雄さんが高齢になり農作業が難しくなったため、現在は1人で園地を管理。「父親と一緒に汗を流し、作業をしながら栽培を教わった日々が、今の自分の礎となつた。本当に感謝している」と輝夫さんへの思いを語ります。

栽培品種は「レインボーレッド」と「ヘイワード」の2品種です。栽培のポイントは、平棚仕立てによる栽培と省力化を掲げながらも、細かい作業を徹底すること。「特に重要なのは、収穫後の冬の剪定。つるの手入れは非常に手間がかかるが、剪定と誘引で樹形を整え作業しやすい高さと環境を作ることにより、その後の摘蕾や摘果、袋掛け、収穫作業の効率が上がる」と話します。

細部まで行き届いた管理を行い、作業効率が良く日当たりと風通しの良い棚に仕立てることで、翌年の実りも良くなり、品質向上と安定生産につなげています。



キウイフルーツの出来や梱包方法について
営農アドバイザーと話す鈴木さん(右)

営農アドバイザーから

あいら伊豆営農経済センター 地区営農販売課

やまぐち あんな
山口 杏奈

鈴木さんは摘蕾・摘果を徹底し、一果ずつ袋掛けを行い、大玉で高品質な果実づくりに取り組んでいます。この手間を惜しまない作業が、安定したおいしさへとつながっています。

あいら伊豆地区は、10月から3月にかけて4品種を出荷していて、静岡県キウイフルーツ果実品評会で入賞するなど、品質でも高い評価を受けています。全果実の袋掛けを徹底し、高単価で販売できるような果実づくりに取り組み、生産者の農業所得向上を目指します。



収穫1週間前まで袋掛けして高品質化
収穫したキウイは伊東共選場で選果

キウイフルーツ生産者

すずき りきや
鈴木 力哉 さん(62)

伊東市富戸在住。キウイフルーツを15アール、ギンナンを20アール、ダイダイを20アール栽培。あいら伊豆キウイフルーツ部会に所属。

